



RAMSA

2018.07

REDEVELOPMENT, ARCHITECTURE, MUSIC, STAGE & ARTS

劇場・ホールの企画・設計及びコンサルティング

株式会社ラムサ

会社案内

次世代のために劇場を創る

株式会社ラムサ 代表取締役

西 豊彦

2018年7月



ラムサは会社として4期目を迎えました。今も歴史の浅い劇場コンサルタントに違いありませんが、いつまでもこの言葉に甘えてはいられません。

前期は売上が厳しく増資も考えましたが、他者からの借入金はないので特に財務上の外見は気にしないことにしました。一方この1年は調査研究・開発という面では大きな実りがありました。前々期末2017年6月にコペンハーゲン、アムステルダム、パリ、ダブリン、ロンドンなど欧州各地を回り、会社の立上げ前から気になっていた疑問点などを払拭し、新たな課題も持ち帰りました。その後英米の劇場基準、さらなるサイトラインの手法開発、バリアフリー、新しいオペラハウス客席形状等について精力的に調査・研究を進め、その成果を発信できるところまでできました。以前は直感的にやっていたことも見直すことで新たな気づきがありました。音についても色として見えるところまではまだ行かないものの感覚が研ぎ澄まされてきたことを感じます。

世の中では弊社が掲げる舞台の感動が生に伝わる鑑賞空間と、建築空間の素晴らしさの両立どころか、過去に戻るような少し残念な劇場・ホールが、民活プロジェクトを中心にまた増えています。悲しいかな高度成長期やバブル経済期とはまた違ったツケを将来世代に残すことになるでしょう。

地域や社会の重要な財産となる多くの劇場・ホールが、高い質と安全性を備え、感動を生む空間として世代を超えて使われるよう、実現に関わる皆様と地域の発展に寄与したいと願います。今期はプロジェクト初動期からの業務獲得に向けて活動する1年にします。

会社概要

【1】主な事業目的

1. 劇場、ホール、音楽堂、講堂、ライブハウス、その他の観覧・集会施設に関する企画・設計・監理・コンサルティング
2. 一般建築に関する設計・監理
3. 地域開発に関する設計・コンサルティング
4. 音楽教室主催、音楽の指導・指揮
5. 音楽会・演劇の企画・開催・広告宣伝
6. 写真制作、映像制作

【2】商号 株式会社ラムサ

(会社名通称表記 RAMSA)

【3】登記上の本店所在地

神奈川県横浜市神奈川区新町5番地4号

【4】住所・連絡先

横浜市神奈川区新町5-4-204
 連絡先 090-6104-6424(西 豊彦 直通)
 TEL 045-567-3040(代表)
 E-Mail t.nishi@ramsa24.com
 FAX 045-567-8647
 WEBSITE ramsa24.com

【5】資本金 300 万円

【6】取引金融機関

横浜銀行 大口支店
 三井住友銀行 東神奈川支店

【7】代表者

代表取締役 西 豊彦(戸籍・商法上)(通称 豊彦)

【8】設立年月日

2015(平成 27)年 7 月 1 日

【9】登録等

法人番号 402000 1111765
 一級建築士事務所 神奈川県知事登録第 16941 号

【10】所属団体

公益社団法人 全国公立文化施設協会 賛助会員

【11】ラムサ業務実績等

2015. 6 某大手設計事務所/東京湾岸部某多目的音楽ホールの基本構想支援業務
2016. 3 某大手設計事務所/水戸市新市民会館基本設計プロポーザル協力業務(代表枠)
- 2016.10 小泉アトリエ・RIA・ラムサ設計共同企業体として石巻市複合文化施設基本設計プロポーザル参加 27 者中 優秀賞(次点)

2017.11 某大手設計事務所/某市文化会館設計業務プロポーザルへの技術協力 委託者は受注

【11】代表取締役の略歴・実績等

■学歴等

1979. 3 神奈川県立 横浜翠嵐高校卒業
 1979. 4~ 早稲田大学舞台美術研究会所属
 1983. 3 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 鈴木恂研究室

■職歴

1983. 4~2007. 6 株式会社石本建築事務所勤務
 2007. 7~2007. 9 RAMSA 研究所
 2007. 10~2015. 3 株式会社日建設計勤務
 2015. 4.1 ラムサ 開業
 2015. 7.1~ 株式会社ラムサ設立、現在に至る

■主な設計・監理実績 (完成年/名称/当時の所属)

1986 柏崎市立博物館 (石本)
 1996 キャロットタワー世田谷・パブリックシアター (石本)
 1993 富士市文化会館(ロゼシアター) (石本)
 1997 加古川市新庁舎 (石本)
 2000 松山市坊ちゃんスタジアム (石本)
 2002 野毛町 3 丁目北地区再開発ビル/横浜にぎわい座(石本)
 2004 上野原市庁舎・もみじホール (石本)
 2011 住友不動産新宿グランドタワー (日建)
 2012 渋谷ヒカリエ シアター・オーブ (日建)
 2015 創価学会 神奈川池田記念講堂 (日建)
 2018 住友不動産 大崎ガーデンタワー (日建)
 他、展示施設、図書館等多数

■担当物件の受賞歴

1990(個人)日本建築士会連合会懸賞設計競技金賞
 (以下 石本建築事務所として)
 1994 静岡県都市景観賞最優秀賞
 1998 公共建築賞優秀賞 富士市ロゼシアター
 1998 照明学会四国支部長賞 広瀬歴史記念館
 2001 照明普及賞優秀施設賞 坊っちゃんスタジアム
 2002 公立学校優良施設文教施設協会賞 常永小学校
 2009 山梨県建築文化賞上野原町庁舎・多目的ホール
 2006 公共建築賞優秀賞
 野毛町3丁目北地区再開発ビル・にぎわい座
 2012~(日建設計として)ヒカリエ 受賞多数

■著作

建築計画・設計シリーズ 図書館(共著) 市ヶ谷出版社

■資格・免許

一級建築士 / 建築積算士 / 再開発プランナー

■所属団体

公益社団法人 劇場空間演出技術協会 正会員
 公益社団法人 日本照明家協会 正会員

■ 劇場コンサルと設計の間にあるもの

弊社の先達である日本における劇場コンサル数社の歴史は長くても35年程で100年を超える欧米の同業者に比べ浅いといえます。そのためか総合劇場コンサルタンといえども、劇場設計における複雑かつ繊細な部分までは完全に把握しきれていないと感じておりました。結果として設計者の技量不足や不認識も加わって残念な結果を招いた施設が少なくありません。いくつか具体例を挙げると、背の低い人は舞台が見えない客席、生音がよく聞こえない客席の一角、客席と舞台の親密性や一体感など淋しい雰囲気劇場、多目的化や座席のゆとりを優先するあまり舞台が遠くなってしまった散漫な客席、使い勝手の悪い舞台、段差等が危険な客席、各種の視線障害、使用頻度に対し過剰な客席数や舞台設備、局所的に危険な構造などがあります。劇場を的確に評価する批評の土壌は日本になく、法的縛りがある訳でもありません。このような事態を打開できないかというのが弊社設立の契機でした。したがってこの業務領域は、既成劇場コンサルと競合するものではなく、領域を拡張し相互補完するものです。

■ 設計支援に重点をおく劇場コンサルティング

弊社はコンサルとしては後発ですが、代表は35年以上設計者として劇場施設の設計現場に直接携わった経験と知識を持ち、直接かつ確実な手法で劇場の計画に反映することができます。例えば客席の設計に当たっては、最良のサイトラインが得られるかを定量評価する指標を複数用意しており、関係者と設計者の間に立って、設計上の目標設定を共有し、成果を確実に評価し、検証することによって、実現を担保します。

■ 劇場を建築設計者のみに任せるのは冒険

建築設計者の中には客席の内部意匠など、目に見える形態のデザインが得意でも、劇場空間を飛び交う目に見えない視線や息遣い、音、光などを想像することは困難です。舞台がつくられる過程、音楽が生まれる過程を深く知り、設計に反映できる建築家はほぼ皆無でしょう。建築家にとっても劇場は難しい鬼門なのです。大組織ほど自前の能力でこなせる妙な自信があり、時におざなり、時に失敗します。弊社は、劇場の設計にも、音楽づくりにも、裏方にも関わり、様々な立場で劇場空間を熟知し、計画初動期から完成後まで関係者に寄り添って導き、安心感を与えることができます。

■ 21世紀の劇場施設の姿を模索する

今世紀の劇場施設の価値の中核は20世紀初頭までとは異なり、富の象徴でもなく、20世紀中期のように機能中心主義でもありません。かといって奇抜な造形にある訳でもありません。そのような指向を強く持つ建築家は、劇場や音楽堂に対する理解が不足しているだけでなく、自己表現を優先するあまり予算を浪費してしまいます。劇場の本質は、豊かな舞台表現の媒介となり、舞台芸術と表現者を育むことにあり、そこを目指せば、素晴らしい劇場施設は適切な予算枠内で実現可能と弊社は考えます。

劇場施設は完成後も成長し続け、時代と共に変化します。完成は起点に過ぎません。劇場施設にとって大切なことは何かをご一緒に考え、ぜひ前に進みたいと思います。

■ プロジェクト初期の目標設定からお手伝いします

計画の初期には、プロジェクトの目標を正しく定め、実現可能性を見極め、その後の達成度をどのように後で測っていくのかを定めることが重要になります。その中には、建設資金の確保、芸術の創造、人材の育成、地域の活性化というものも当然あります。この中で、「劇場施設の形式・形態・規模の決定」は設計者の選定前に一定のシミュレーションが必要であり弊社が活かします。また「地域の活性化」については再開発等や街づくりに深く関わってきた**弊社の知識と経験を活かせるもの**と考えます。また**敷地の選定なども、建築家としての知識・経験や勘が必要**であり、弊社の領域であると考えます。

■ おおまかなプロジェクトの流れ

プロジェクトの萌芽

↓目的は？どこで？何を？どのようにして？資金は？

基本構想段階

↓目標の明確化（鑑賞 創造 街の再生・活性化など）

基本計画段階

↓具体化 実現/永続可能性 概算 専門/設計チーム

設計段階

↓形を描く段階 運営は？

建設段階

↓実際に具体化する段階 完成後の運営がすでに始まる
完成以降

↓運営しながら施設も変化し劇場は成長・永続していく

■劇場（音楽堂を含む）の主な形式と形態

主に西洋を起源とする劇場形式 数字はおおよその収容人数				
オペラハウス －１８００ （－２０００） プロセニウム形式 オーケストラピット 多くは馬蹄形多層客席	ミュージカル劇場 １２００－１８００ （－２０００） プロセニウム形式 オーケストラピット エンタテインメント劇場	演劇劇場 １００-１２００ 小劇場から大劇場 多様な形式と形態 プロセニウム形式 エンドステージ形式 スラストステージ形式 アリーナ形式 コートヤード形式	コンサートホール １５００－２０００ シューボックス形式 ヴィニヤード形式 直方体 扇形 その他 リサイタルホール ２００－６００ シューボックス形式 直方体 扇形 その他	その他の形式 アリーナ －６０００ 円形劇場 野外劇場 野外音楽堂 その他
日本の伝統芸能を起源とする形式				
歌舞伎劇場	芝居小屋 浄瑠璃劇場（文楽）	能楽堂 野外舞台		

劇場施設は演じられる演目ごとに異なる形式・形態が求められます。形式・形態が異なると多くの場合、機能や要求が異なります。中には形態が異なっても、機能が近いものがあり、そのまま多目的に使うこともありますし、形態を変化させることで多目的な用途に対応することが行われます。

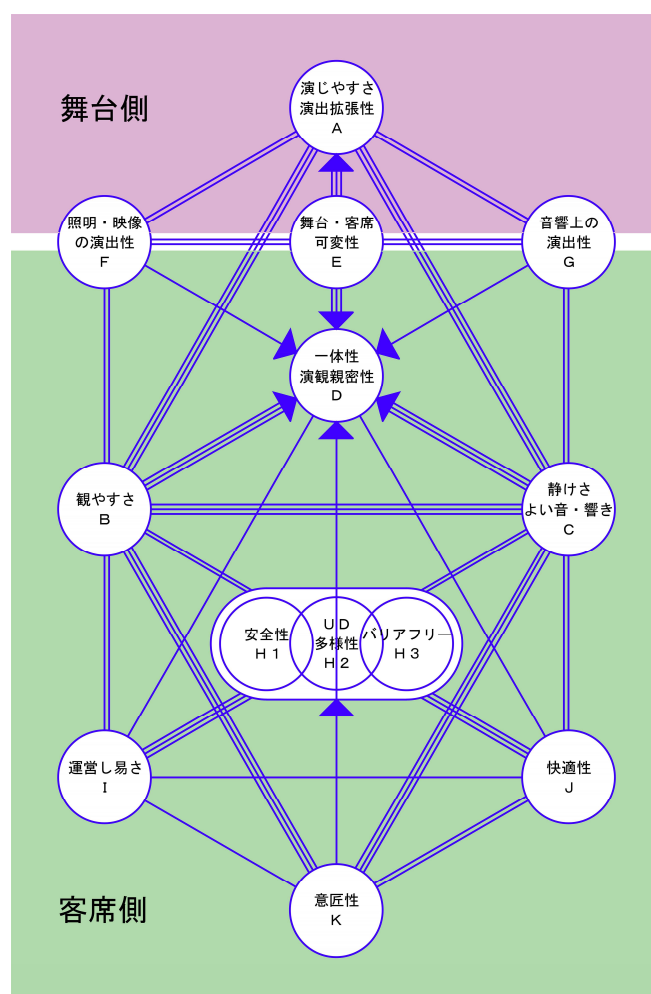
■客席空間を決定する１１の要素

客席空間は舞台と並び、劇場施設の心臓部です。観客はここで最も長い時間を過ごし、演者と接し感動を共有する場となります。客席を作り損なえば客席は雰囲気のないものとなります。何が成否を分けるのでしょうか。

ラムサでは客席空間（本来舞台と分離すべきものでない）に求められる要素は１１に集約できると考えました。ここでは概念図のみ簡単に示します。

- A 演じやすさ、演出の拡張性
- B 観やすさ（視覚）
- C 静けさ・よい音・響き（聴覚）
- D 空間の一体性、演ずる側と鑑賞する側の親密性
- E 舞台と客席の変換性
- F 照明・映像上の演出性
- G 音響上の演出性
- H １ 安全性 ２ ユニバーサルデザイン ３ バリアフリー
- I 運営し易さ
- J 快適性（衛生面や職場としての労働環境を含む）
- K 意匠性

以上は制作側の演出家、各種デザイナー、オペレイタ、舞台技術者、歌手・俳優・指揮者、鑑賞者、館のオーナー・管理者、主催者、所轄官庁に間接・直接的に評価されます。



業務内容（「劇場」はホール・音楽堂・その他に読み替えていただけます）

■対象範囲

商業劇場/ 劇場・ホール（公共・教育）/ 音楽堂・コンサートホール/ 舞台芸術センター/ 多目的ホール/ 講堂（レクチャーホール）等/ 教会、講堂等の宗教施設/ 会議場、コンベンション施設、イベントホール/ アリーナ、スタジアム（特に観覧席と演出空間等に係る部分）/ その他の集会施設/ 一般建築

■対応するフェイズ(段階)等

- 企画段階、基本構想段階、基本計画段階、基本設計段階、実施設計段階、工事施工・監理段階、完成後、維持管理段階、修復・改修、再活用・転用など全ての段階での業務が可能。
- 各フェイズにおける、コンセンサス形成の支援、企画書、基本構想書、基本計画書、設計仕様書等の作成、計画書または仕様書の作成、概算予算の作成（舞台設備等を含む）
- 初期における実現可能性調査のための資料作成
- 工事費算出又は判定（弊社には建築積算の資格者がおります）

■業務に対する立場と姿勢

立場的には、設置者・運営者側に立つてのコンサル、建築設計者への協力、監理者としての助言、施工者への協力等のいずれも可能です。劇場の設計は極めて高い専門性が要求され、幅広い分野の知識が必要です。また広い時空間を支える、文化的なインフラとなるために、弊社の役割が必要と考えています。劇場の設置者や建築設計者を支え、より高い性能、価値、創造性の実現を担保したいと考えます

■調査・研究

日本の劇場・ホールを取り巻く社会状況や舞台芸術の状況は、なかなか改善しません。働き手、若者が減り、重い社会福祉の重圧が増していくとはいえ、状況を見据えることにより、前向きな対応も可能になります。持続可能な社会への対応やバリアフリー・ユニバーサルデザインへの対応についても欧米からの大きな遅れを取り返さないといけません。弊社では積極的に国内外の動向調査や研究を行い、技術向上と情報の拡散を行っています。

- 最新の劇場・ホール設計技術について/類似事例調査
- サイトライン分析手法の開発、設計（詳細はWeb siteを参照ください）
- バリアフリー・ユニバーサルデザイン等の調査。社会からの要請として障害者差別の解消、少子高齢化社会への対応、国際化等、多様性の受容がこれからの劇場・ホールの課題です。

■劇場計画

- 需要調査、分析/地域開発にもたらす劇場・ホールの波及効果考察
- 敷地に対する収容人数の算定、ボリュームスタディまたは建設可能なホールタイプの提案
- 劇場・ホールの用地選定にあたっての敷地条件作成/法令調査、概算予算作成/将来的更新、維持管理面からのチェックまたは助言/搬入経路の調査分析

■鑑賞空間(客席・観覧席等)のデザイン

鑑賞空間は建築家の美的才能が発揮できる劇場等の中心的空間ですが、サイトライン確保、建築音響上の課題達成、避難法令のクリアなど設計技術上の難易度が極めて高い空間とも言えます。それは記憶に残る感動を生む空間でもあり、演者と鑑賞者の親密さが求められます。座席周辺の設計も実は簡単ではありません。弊社は客席デザインの最前線の発想や、最新のサイトライン設計等により、設計・技術支援を行い、完成までフォローします。

■パブリックスペース(フロントハウス)の計画

出入口、エントランス、ロビー、ホワイエとそれに付属するトイレやバー、クロークなどは、単なる通過空間ではありません。劇場・ホールにくる喜びを高め、印象を左右する重要な場であり、社交の場ともなります。

■舞台裏の計画

舞台裏の機能的な総合的計画・設計/各種大道具、舞台備品の収納計画作成を行います。

■市民利用諸室の計画

劇場・ホールに付属する市民利用の諸室についても、ご要望に応じ、さまざまな利用形態を考慮した高度な提案が行えます。ラムサは展示施設・図書館施設等の設計経験も豊富にあります。

■建築音響

防振・遮音計画、室内音響計画について計画・設計支援・助言をします。本格的なシミュレーション、測定等は音響設計事務所の協力によります。

■舞台計画、舞台機構、舞台照明、舞台音響、映像

クライアントの要望をふまえ、基本性能を重視した合理的な計画を作成します。その上で拡張性、互換性、将来的な柔軟性を確保します。また持続可能かつ電力効率の高いシステムを提案します。

■設備計画・電力・エネルギー効率

劇場・ホール特有の課題に対し、持続可能かつ光熱水費削減が可能な環境戦略を提案します。

■防災計画

舞台での危険を除去し、鑑賞空間の高い安全性を確保します。大災害時に速やかに機能回復・活動再開し、復興の起点となる劇場をめざします。弊社は経験と知識を活かし、既成劇場コンサル以上の防災性能を提案します。

■施設の複合化

複数の劇場・ホールの複合もしくは他用途の施設と複合には、長所も短所もあり、単独の劇場の場合と異なる様々な課題が生じます。早期における課題抽出、打開策の提案、助言等を行います。

■アクセシビリティ・ユニヴァーサルデザイン・多様性への対応

車椅子席の配置計画を含む障害者対応、視覚障害者対応、聴覚障害者対応、その他の障害者対応、ユニバーサルデザイン、身体が多様性や外国語に対応した劇場の計画は弊社は得意としています。

■運営・維持管理

管理・運営計画、長期修繕計画の作成/ 既存ホールの分析・診断・改修計画案の作成

■劇場診断

簡易な調査により既存施設の診断を行います（詳細はWeb siteを参照ください）

■改修計画作成

本格的な調査・ヒアリング等に基づく改修計画作成を行います。

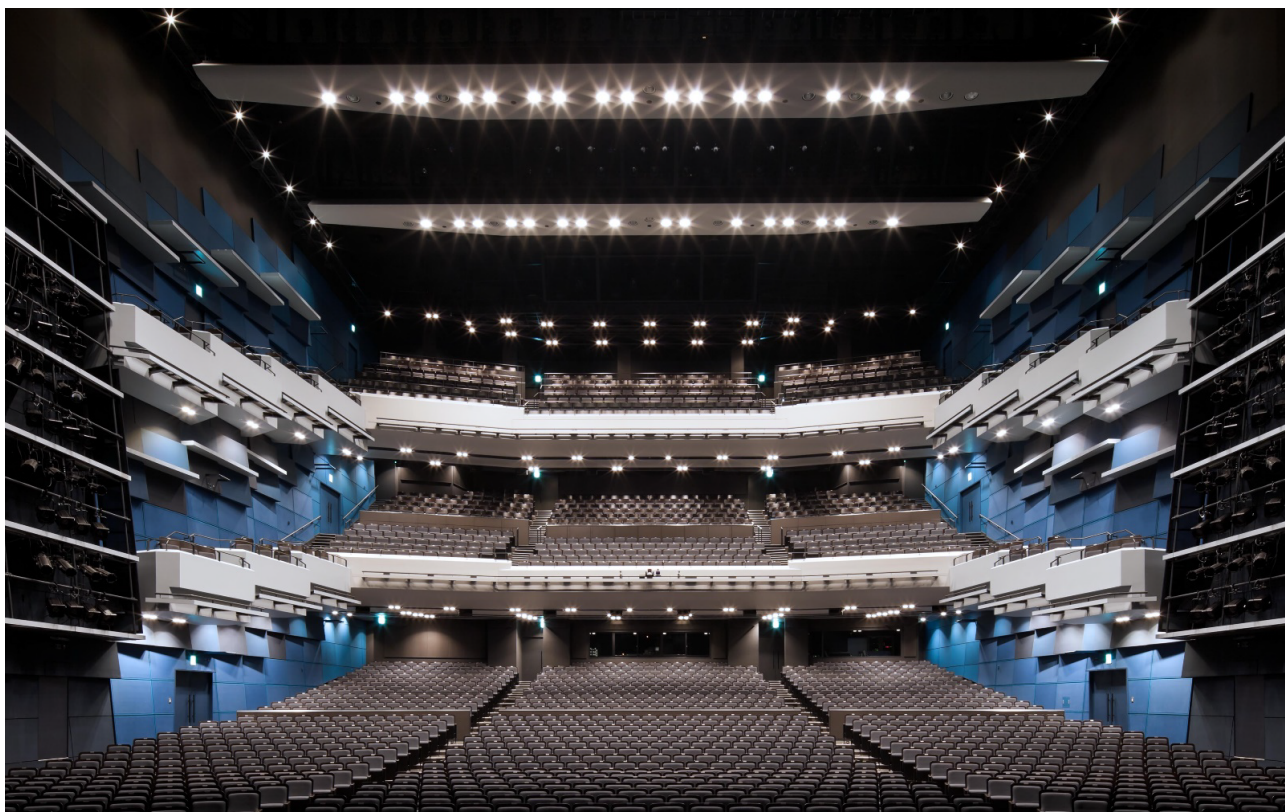
■一般建築の設計について

劇場・ホール等以外の建築もちろん対応いたします。個人の音楽堂、音楽スタジオ等を含む住宅も歓迎しますし、その専門的な部分のみの技術協力もいたします。

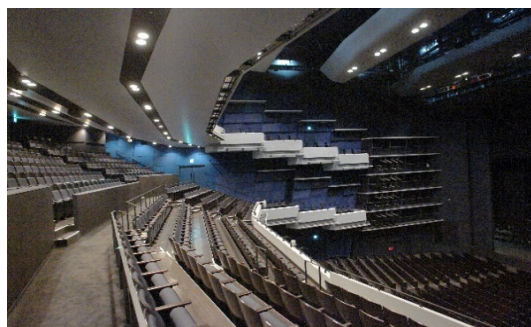
■業務報酬について

劇場・ホール等に関する業務の多くは通常の設計・監理ではないため、報酬額は所要人件費・経費の積上げもしくは、基礎的な調査・研究に要した費用から算定させていただきたいと存じますが、ご相談に応じます。

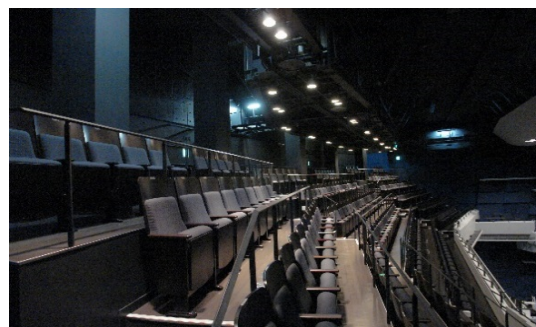
■シアターオーブ/渋谷ヒカリエ 2012年完成/延床面積144,545㎡/地上34階地下4階 写真撮影：西 豊彦(※以外)
用途：商業、オフィス、劇場、イベントホール、区施設 ミュージカル公演を主目的とした本格的劇場 最大1972席。



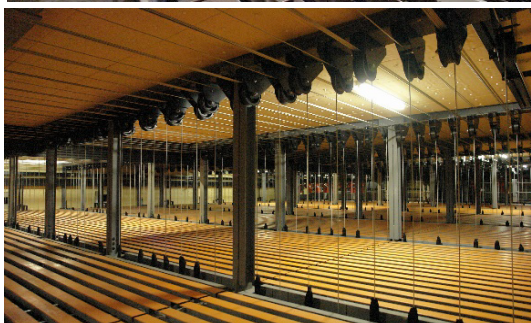
客席全景：3層構成の囲み形客席。内装は天空をイメージした青が基調（※SS東京）



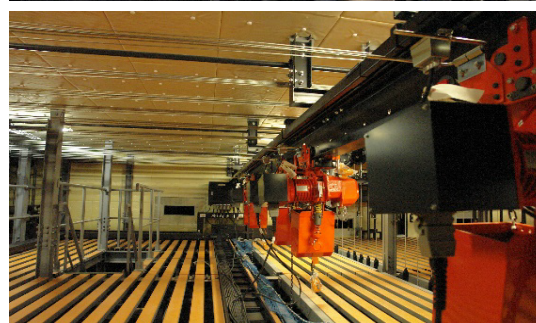
← 2階席
どの席から見やすく
舞台の見切れがない
掬うように両翼
が中央より上がる



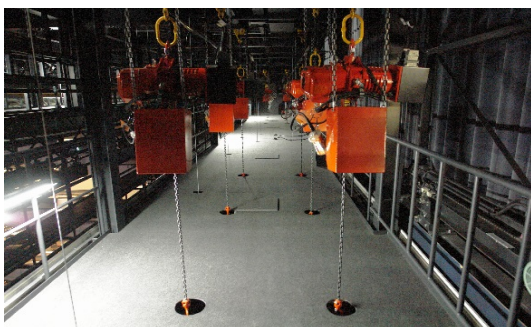
→ 3階席
オーケストラピット
までよく見え、舞台
に向かって迫り出す



← スノコ
舞台上25mにある
作業性が良い 一点
吊り設置が容易



→ 照明ブリッジ給電
用クレーン
ブリッジは任意のバ
トンに吊り込める



← 前舞台すのこ
客席上部「浮雲」内
部 持込機材の昇
降に使われる



→ 奈落
組立床内部（前方は
大迫り）防水が施
され マルチに使わ
れる空間

1972席の大型ミュージカル劇場として海外作品を数週間以上受入れ公演できる。オケピットを使う舞台間口15m位のミュージカル仕様で約1800席になる。そのほか大型演劇、身体的パフォーマンス、音楽公演等にも使われている。

幅広い演出に対応した舞台／舞台と客席の可変性

多様な演出に対応すべく舞台は前からオケ迫り、大迫り、組床、固定鉄骨床、後舞台の順で構成され、主舞台上の床材は自由に加工できる。舞台領域はオケ迫りより客席側に拡大でき花道も設置できる。吊物は美術パトンと照明パトンを区別しない欧米標準になっている。多様な演出および美術・音響・照明・映像表現への潜在力を持ち、持込みへの可変性・即応性が確保されている。舞台での大量の水の使用、ドライアイス・スモーク使用時の空気の流動性、緞帳等幕類にかかる差圧、客席上部における吊点確保、客席上空フライング対応等が考慮された。

演じやすさ

演者と鑑賞者の相互作用により進行する演劇において、俳優にとっての演じやすさとは、客席から生の反応が返ることである。オーブでは客席が幾重もの壁のようにを舞台を囲み、観客の顔が舞台からよく見える。

観やすさ（視覚）

施設面で劇場の固定客を増やす重要な方策はむろん観やすい客席とトイレであろう。2階席において成人男子がオケピット内の指揮者が見えることが設計条件であったが、実際は要求以上を目指した。完成後に検証してみると前列の客に対し7cm位眼高の低い女性や子どもでもオケピット＝前舞台まで頭越しに見えるサイトラインが客席全体で達成されている。オーブはどの席からも、舞台が前後、左右とも見切れない。サイドバルコニー席でも舞台間口を8間に絞っても見切れは発生しないし、舞台額縁が上階バルコニーに遮られることもない。それでいて最大視距離は客席数に比して小さい。

静けさ・よい音・響き（聴覚）

オーブは鉄道軌道・道路からの音・振動を入れず、中から漏らない遮音性が技術的な重要課題であったが、最新の設計・建設技術、相当の費用・膨大な労力により達成された。

ミュージカルでは音響デザイナーが電氣的拡声の魔術で音場を創作する。持込み音響機材への可変性、即応性が重要だ。電気音響のみならず生音でも、明瞭かつ拡がりのある響きが客席を満たす。

一体性、演観親密性

演技空間を球状に取り囲む形態を切り取って客席がつくられている。サイドバルコニー席は舞台に手を差し伸べるように拡がり、主バルコニーでは中央よりも左右が少し盛り上がる。3階席は前に迫り出している。お互いの客席が視野に入ることによって感動が共有され高まる。

照明・映像上の演出性

前方の投光ギャラリーは舞台間口を狭めた場合や大量かつ大型の機材積載に対応し、相当量の機材積載が可能な多層バルコニー席先端と合わせると、舞台照射の死角はほぼない。将来的にも演出の余力があろう。前舞台上部や客席周囲上部も投光・投影が可能で、インターアクティブな演出も可能ではないか。

音響上の演出性

持ち込み音響機材に対する高い柔軟性と即応性がある。客席空間の随所に機材設置が可能になっている。

安全性／バリアフリー／多様性対応ほか

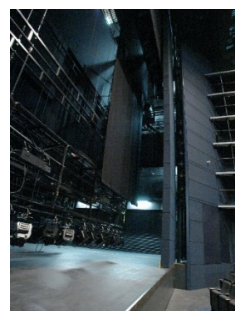
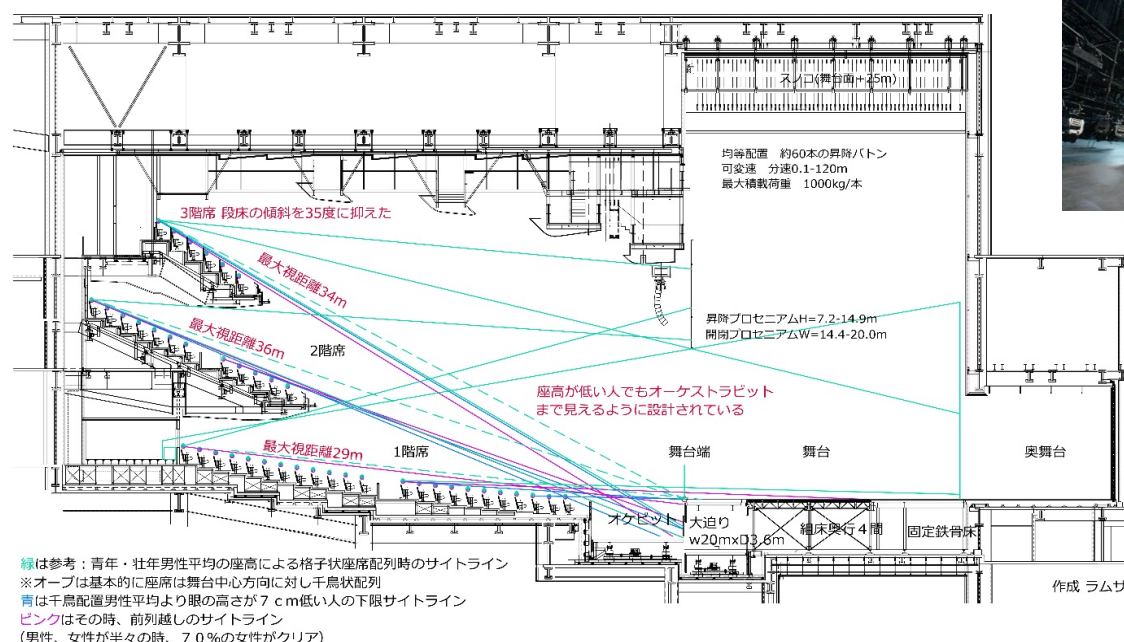
客席内通路に数多くの手摺が設置し、バルコニーからの落下防止対策も十分に施こした。完成後も増えている。1階席中ほどに左右に分散して客席椅子で同伴できる車椅子が12席分ある。背の低い人も前の人を気にせず安心して鑑賞できる。

運営しやすさ／快適性

座席回りのつくり、もぎり前の空間、ホワイエ空間や飲食のサービス、トイレの数量・仕様に十分に配慮されている。東京にも新たな観劇スタイルを創出したオーブはさらに進化するだろう。

意匠性

客席内部の壁・天井の形態は、音を適度に反射・拡散させ有害なエコーのない工夫がされている。色彩は青が採用され、パースペクティブで直線的なデザインとの相乗効果により舞台への意識集中を高める。

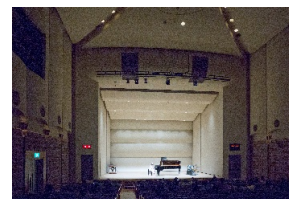
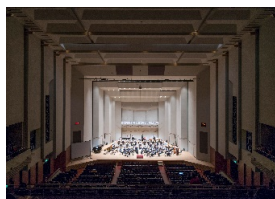
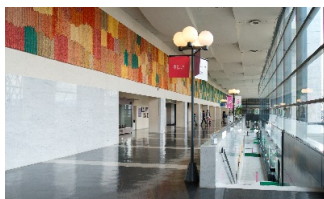


舞台

■ロゼ・シアター（富士市文化会館）

1993年完成/延床面積22,674㎡/地上4階地下1階 用途:ホール(市民会館)

写真撮影:西 豊彦

大ホール1,636席 中ホール700席 小ホール 326席 リハーサル室、練習室、展示、レセプション他
(音楽主体多目的ホール) (演劇主体多目的ホール) (市民利用の多目的ホール)

左よりガレリア、大ホール、中ホール、小ホール

20代後半に苦勞して設計したものです。完成後に小ホールの特定の列が見にくいとして、床レベルを改修しました。その時サイトラインを分析するプログラムを初めて作りましたが、わずかな寸法が原因であったことに驚きました。今に繋がる貴重な失敗です。

■野毛町3丁目北地区再開発ビル/横浜にぎわい座

2001年完成/延床面積14,135㎡/地上13階・地下3階

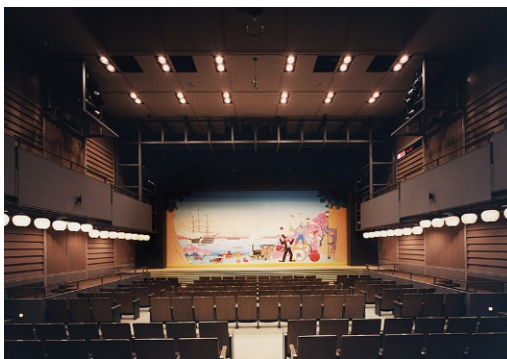
用途:劇場、集合住宅、商業

野毛地区の活性化をめざした市街地再開発。低層部がにぎわい座

(劇場部分は石本建築事務所とACT環境計画の協働)

毎月前半は落語中心の寄席興行、後半市民利用という運営形態。寄席は大体満員御礼。野毛の昭和の匂いは再び人を惹きつけ、この施設もいつしか街に溶け込みました。

芸能ホール391席 寄席芸を中心に多様な演目に対応可能な劇場



内部写真3点横浜市HPより



寄席囲い仕様

のげシャレ最大141席
大道芸も可能な実験劇場

外観写真: 西 豊彦



■上野原市庁舎・もみじホール

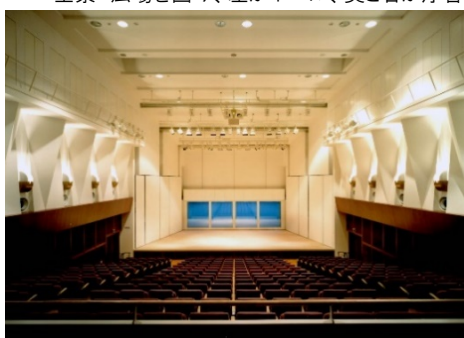
2004年完成/山梨県上野原市/延床面積10,252㎡/地上5階地下1階

用途:庁舎:集会施設

この施設は財政規模の小さい自治体の要望に応じて設計したもので家具・舞台設備・備品・外構一式込でなんと坪105万(税抜)で完成できました。準寒冷地にある環境配慮型の建築でランニングコストも抑えた。屋上の太陽光発電はその後増設され発電所のようになりました。中庭は時折お祭り広場になります。多目的なホールは軽運動から音楽会まで対応し、使い勝手が良いそうです。迫りで舞台の大きさが変わり、床下備品庫の出入れもできます。

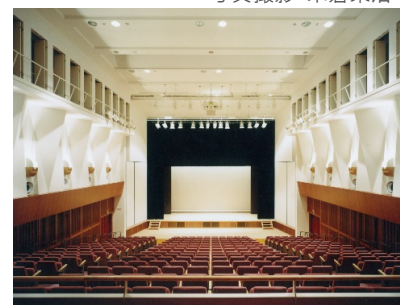


全景 広場を囲み、左がホール、奥と右が庁舎



コンサートホール形式

移動観覧席、吊物、迫りは庁舎職員や市民が直接操作できます。側面には拡散反射面と吸音を手動で切り替えられる壁があります。壁の最上部には手動で開閉できる開口部があり、クラシックの演奏会に十分な残響と響きが得られます。今も稼働率が非常に高く空気がほとんどないと聞きました。舞台後方に開放できる建具がありますが、普段は内外別の舞台として使われます。

移動式観覧席を備え、残響可変、軽運動から音楽会まで
コンサートホール形式、プロセニウム形式、平土間形式が可能
日常的には専門技術者を必要とせず、庁舎の職員が兼務で管理できる

プロセニウム形式(小舞台)



プロセニウム形式(小舞台)

写真撮影:米倉栄治

■ キャロットタワー／世田谷パブリックシアター

1996年完成／延床面積76,754㎡／地上27階・地下5階 写真はHPより

用途：事務所、店舗、劇場、駅、変電所他

（劇場部分は石本建築事務所とアトリエR斎藤義氏（現在環境デザイン研究所）の協働）



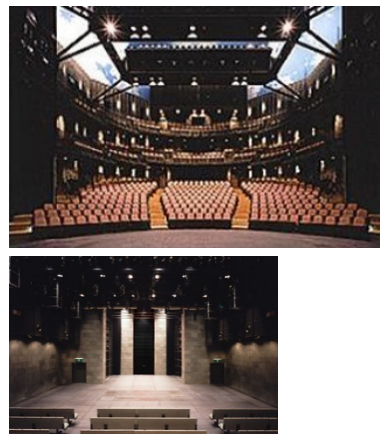
パブリックシアター最大約600席

形状は可変設備により野外劇場のようなオープン形式と
プロセニウム形式の舞台の2パターンが可能
客席の勾配も可変

シアタートラム最大248席

自由な形式が可能な実験劇場

斎藤さんの劇場愛が凝縮。私はお手伝いしました。



■ 坊ちゃんスタジアム（松山市民球場）

2000年完成／愛媛県松山市／延床面積33,421㎡／地上4階

プロ野球仕様の臨場感と観やすさを追及した野球場。3万人収容

写真撮影：西 豊彦



ロケーションは素晴らしく、大地と天空に開かれたおおらかな造形になっています。子規も喜んでくれたことでしょう。

■ 山梨県 昭和町常永小学校

2000年完成／山梨県昭和町／延床面積7,719㎡

多様な教育プログラム、学校開放に対応したエコスクール
発展を続ける地元では子どもの城と呼ばれているそうです

ランチルームはハリ・ポッターのようだとよく言われました
自立的で意志の強い子どもが巣立ってくれたでしょう。

写真撮影：米倉栄治



■ 創価学会神奈川池田記念講堂

2014年完成／横浜市鶴見区／延床面積約10,000㎡／地上2階

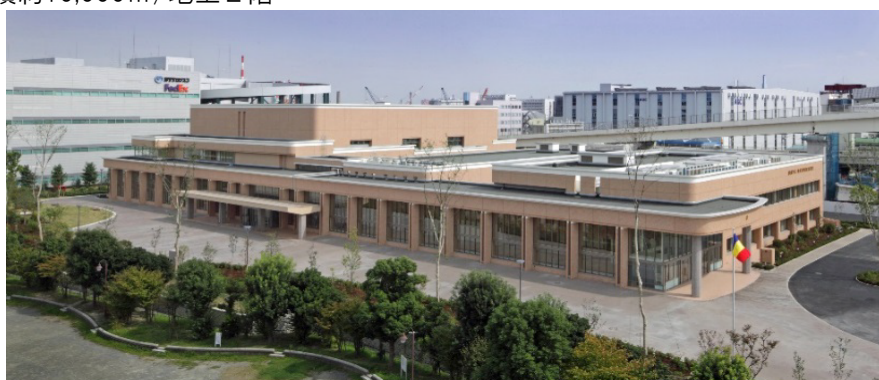
用途：宗教施設

写真：篠沢写真事務所

大講堂は劇場形式の約3,000席
全国最大規模の講堂

内部の写真は掲載できませんが、学会様
のホームページで見られます。

雰囲気のある優しい内部空間で、吹奏楽
等の練習や演奏会にも使われています



株式会社ラムサの社是（経営方針）

1. 劇場、舞台技術、建築、音楽を通して人間生活を豊かにする
2. 古今東西の思想・発想を柔軟に取り入れ、利用可能な技術として実現し、普及に努める
3. 人間の感性を重視する
4. 安全性を最優先する
5. 科学的な裏付けをとる
6. 判断の自律性を守るため独立不羈を保つ
7. 中立性、公平性、透明性
8. 遵法精神
9. 持続可能な社会を実現する



ラムサのロゴマークはプロセニウムとRを図案化した鳥です

会社名 RAMSA について

会社名はラムサール条約 [Ramsar Convention](#) からとりました。

同条約は現代の世界的な環境保護条約の中では最も古く、1971年に会議が行われたイランの都市の名称がつけられました。渡り鳥などの生態系を守るために湿地帯の保全を国際的に取り決めたものです。本来、自然界の生物にとって国境はなく、国家思想も政治も経済も宗教もありません。

国、組織、立場の違いにとらわれずに活動し、依頼があればどこにでも飛んで行こうという業務の姿勢として、会社名にいたしました。

RAMSA named after the [Ramsar Convention](#)

The Convention on Wetlands, called the Ramsar Convention, is an intergovernmental treaty that provides the framework for national action and international cooperation for the conservation and wise use of wetlands and their resources.

